

山林火災の鎮火と住民避難に貢献した活動

～大附地区自主防災組織(ときがわ町)～



自主防災組織の紹介

- 創設：平成22年
- 加入世帯数：84世帯
- 地域の特徴：戸建住宅中心の山間部

活動内容

1 消防機関の円滑な活動を支援！

弓立山の火災現場や自然消火水利(瀬戸沼)の誘導案内を実施

2 迅速な初期消火活動を実施！

日枝神社周辺を20～30人で迅速に初期消火し、住家への延焼を防止

3 町と協働し避難所の開設・運営に貢献！

避難勧告の発令により、避難所を迅速に町と一緒に開設し、避難者受入
避難地区の安全のため、避難者宅の警備を2, 3人が1組となり実施。

災害時活動できた理由

普段から町や消防団と一緒に、防災訓練を実施して、やるべきことを熟知
町職員、消防団員、住民同士が顔の見える関係を構築



大附地区自主防災組織に伺いました！

Q 災害時に円滑に貢献できる秘訣があったら教えてください。

- A ○災害時に円滑に活動するためにには訓練が不可欠だと思います。まずは、普段の防災訓練を市町村防災課、消防署、消防団の協力を得ながら、多くの住民参加のもと実施することが必要だと思います。
- 自分たちの地域の弱点(土砂災害時にはどのような状況となるか、地震時はどうか)をハザードマップを参考に情報収集しておくことが必要だと思います。また、災害弱者である要配慮者の情報を市町村福祉課や独自の世帯調査などにより把握し、役員間で情報共有することが重要だと思います。
- 要配慮者に対しては、誰が救助するのかをあらかじめ決めておくことが必要だと思います。
- 災害時には資機材も必要となるので、地域の特性に合わせた防災資機材の整備も重要だと思います。
- 一人でも多くの住民と日頃から防災について考え、訓練を繰り返し行うことが防災への備えになるのではないかと思います。

Q 活動するに当たって苦労したこと、課題などがありますか。

- A ○今回の消火活動の際、山あいでは携帯電話が通じない場所があり、情報伝達に不便を感じるがありました。トランシーバーなど携帯電話とは別の手段の必要性を感じました。
- 夜間の消火活動をグループ編成により行いました。消火する場所と戻る時刻を決めましたが、懸命な消火活動で戻りが予定より遅くなるがありました。仲間の帰りを待つ者は不安を感じるがありますので、組織内のルール作りとその遵守の必要性を感じました。
- 20Kgのジェットシューターを背負っての急坂の山歩きには体力を要します。日頃からの体力維持は健康管理面からも大切と感じました。
- 長時間にわたっての消火活動には、食事の準備を伴います。炊き出し訓練とは違い、誰もが疲れてしまっていると準備の依頼も難しい状況となります。交替と休息も重要だと感じました。